

地震防災技術普及小委員会 活動報告



地震工学委員会 2020年度 第1回研究会

2020年5月14日

溜 幸生

1

小委員会の概要



❧ 発 足：平成8年11月～（今年で24年目の活動）

❧ 委員構成：委員25名、顧問9名（2020.4時点）

委員長	溜 幸生(東電設計)		
副委員長	樋口 俊一(大林組)		
幹事長	大竹 省吾(オリエンタルコンサルタンツ)		
副幹事長	坂井 康伸(清水建設)		
	WG1	WG2	WG3
主査	青地 知也(開発工営社)	佐藤 京(寒地土木研究所)	坂上 明(奥村組)
副主査	武田 篤史(大林組)	山口 直也(エイト日本技術開発)	鈴木 直人(建設技術研究所)
委員	池田 隆明(長岡技術科学大学) 黒田 武大(鹿島建設) 坂井 公俊(鉄道総合技術研究所) 福武 毅芳(清水建設) 藤田 亮一(エイト日本技術開発) 倉橋 奨(愛知工業大学)	指田 朝久(東京海上日動リスクマネジメント) 芳賀 堯(パシフィックコンサルタンツ) 橋本 隆雄(国士舘大学) 濱野 雅裕(エイト日本技術開発) 渡辺 和明(大成建設)	工藤 浩史(ドーコン) 鎌田 泰子(神戸大学) 佐藤 清隆(電力中央研究所) 中山 学(神戸学院)
顧問	泉 博允(成和コンサルタンツ) 岩本 利行(クボタ) 大野 春雄(建設教育研究推進機構)	小川 雄二郎(BOSAI International) 木全 宏之(高圧ガス保安協会) 後藤 洋三(開発虎ノ門コンサルタント)	田中 努(メトロ設計) 松田 隆(大林組) 森本 巖(基礎地盤コンサルタンツ)

2

活動内容



☞ 小委員会の活動目的

社会基盤施設の耐震性向上および地震防災性に優れた社会建設のために必要な知識・知見・思想、および調査・研究成果など地震防災技術を、土木学会会員を中心に広く普及させ、地震災害の軽減に貢献する

☞ 主要な活動内容（行事など）

- ・WG1：耐震設計入門セミナーほか
- ・WG2：地震災害マネジメントセミナー
- ・WG3：地震防災技術懇話会、被災地視察会
- ・出版活動

3

耐震設計入門セミナー

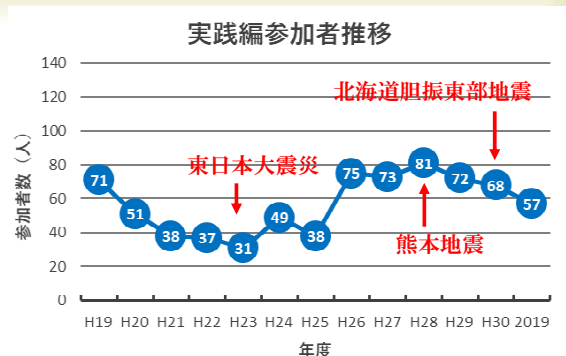
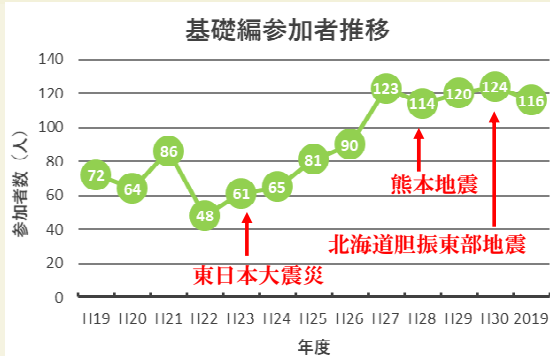


☞ 発足当時から継続実施している当小委員会の看板行事

☞ 平成19年度より、「基礎編」、「実践編」の2本立てで実施

- ・基礎編：耐震設計業務経験の比較的浅い人向け
- ・実践編：実務経験5年程度以上の人向け

4

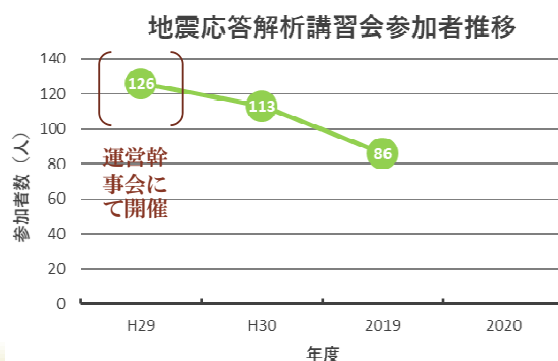


- ❧ 東日本大震災以降、参加者が増加傾向にある。特に基礎編は、ここ数年、講堂が満席(120名)に近い参加状況となっている
- ❧ このため、ウェブ配信による地方会場開設などの可能性も模索している状況（実践編セミナーで試行済）
- ❧ 2020年5月以降「新しい形式」のセミナーを模索中

地盤の地震応答解析一秋の講習会 (令和元年10月17日開催)



- ❧ 吉田 望先生（関東学院大学）による実務者向け地盤の地震応答解析に特化した丸1日の講習会
- ❧ 平成29年度は運営幹事会マターで開催
- ❧ 平成30年度より当小委員会が担当（夏あるいは秋）



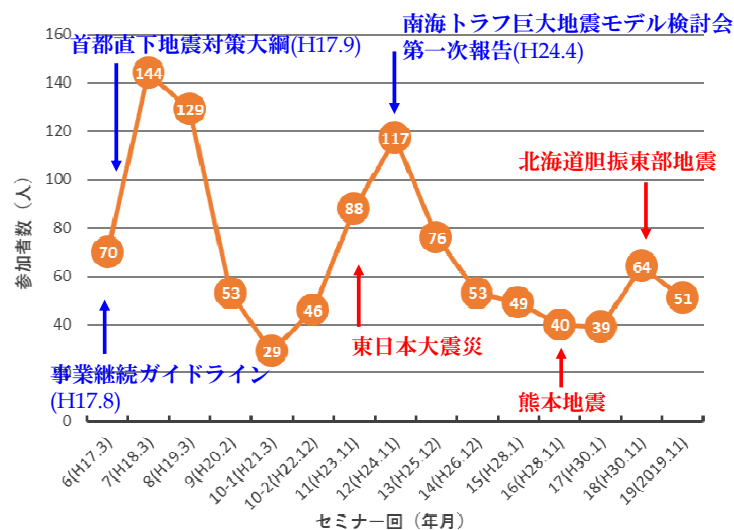
地震災害マネジメントセミナー



☞ 平成11年2月に第1回セミナーを開催し、以降ほぼ毎年継続的に実施

開催回	開催年月	テーマ
1	H11. 2	地震防災情報管理におけるGISの活用 - 防災GISの現状を探る -
2	H11. 12	次の大地震で防災計画は機能するか
3	H14. 2	地震リスクマネジメントを考える - その必要性和課題について - (東京開催)
4	H14. 11	地震リスクマネジメントを考える - その必要性和課題について - (神戸開催)
5	H16. 3	GISを利用した地震防災情報管理の最前線 - 事前予防・事後復旧における情報活用の現状と課題
6	H17. 3	災害情報の共有化を考える - その現状と課題について -
7	H18. 3	地震災害のリスク管理と危機管理 - ハザード評価からマネジメントの実践へ -
8	H19. 3	事業継続計画のこれから - 建設業界からの発信 -
9	H20. 2	長周期・長継続時間地震動への備えはできているか - 現代社会の盲点を探る -
10-1	H21. 3	地震災害対応におけるリモートセンシング・テクノロジーの活用 - 先端技術による被害軽減の現状と課題 -
10-2	H21. 12	開催10周年記念シンポジウム
11	H23. 11	地震防災のあるべき姿 - 東日本大震災の教訓 -
12	H24. 11	我が国の地震・津波対策の現状 - 南海トラフ・首都直下地震に備えて
13	H25. 12	南海トラフの巨大地震に向けた津波への備えと課題
14	H26. 12	首都直下地震・想定される被害と防災・減災への取り組み
15	H28. 1	地震防災と先端技術
16	H28. 11	熊本地震で見えてきた課題と今後の展望
17	H30. 1	復興活動から考える減災・防災
18	H30. 11	大都市に潜む震災要因と求められる対策 - 液状化や津波に着目して
19	2019.11	我が国の地震防災を支える高度解析技術 - シミュレーション技術の最前線

地震防災マネジメントセミナー参加者推移



☞ 内閣府等による国の動きがあった時の関心は高く参加者が多いが、集客に苦戦している時期も多い。H30は挽回傾向を示したが、テーマ選定や広報活動などに工夫を凝らし企画していく。

地震防災技術懇話会

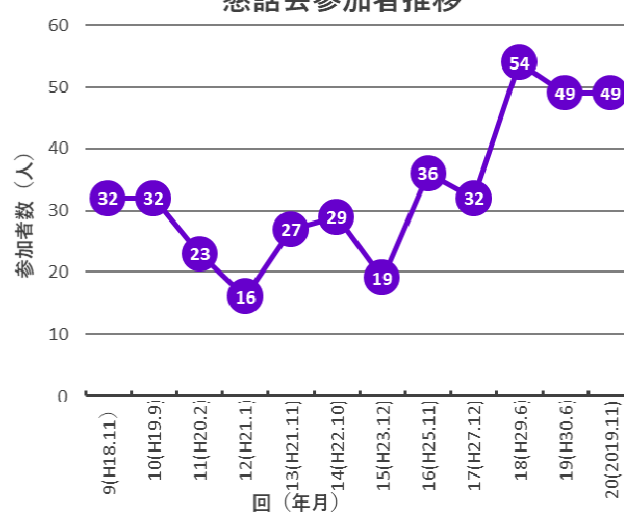


- 国内外の地震防災分野における著名な先生方を講師としてお招きし、ご自身の研究に纏わる話など、できるだけ平易で肩の凝らない話をさせていただくもの。平成14年より継続的に実施

開催回	講師	開催年月	講演タイトル
1	George Gazetas 先生	H14. 5	杭の動的相互作用問題
2	伯野 元彦 先生	H14. 12	震害から学ぶ
3	吉見 吉昭 先生	H15. 4	地震地盤工学における設計マニュアルの功罪
4	田中 貞二 先生	H15. 6	常時微動から強震動へ - 研究の思い出話、こぼれ話 -
5	武田 寿一 博士	H15. 12	高層鉄筋コンクリート建造物の耐震設計 - 武田モデルの誕生 -
6	石原 研而 先生	H16. 4	地盤と基礎の被害とその考察
7	山田 善一 先生	H16. 8	地震工学・構造工学に関わって - 私の履歴書七十五年 -
8	田村 重四郎 先生	H17. 9	1995年兵庫県南部地震での第一次提言提案の頃
9	野上 仁昭 先生	H18. 11	米国での長年の研究生生活を振り返る:人生様々
10	片山 恒雄 先生	H19. 9	国際交流 - 私の経験から -
11	星谷 勝 先生	H20. 2	リスクマネジメントにおける地震防災投資効果の評価技術
12	和泉 正哲 先生	H21. 1	将来を見据えて
13	土岐 憲三 先生	H21. 11	地震防災と文化遺産
14	篠塚 正宣 先生	H22. 10	都市インフラの地震災害リスク
15	亀田 弘行 先生	H23. 12	温故知新 - 地震防災技術の変遷から -
16	大町 達夫 先生	H25. 11	直下地震工学序説
17	濱田 政則 先生	H27. 12	液状化地盤の流動研究と実践
18	西村 昭彦 博士	H29. 6	建造物の耐震設計と補強 (被害を備みて)
19	岩瀬 敏広 先生	H30. 6	温故知新「私の研究・教育人生」
20	家村 浩和 先生	2019.11	免震制振技術を応用した長大橋の耐震補強

9

懇話会参加者推移



- 17回までの各回は概ね20名～30名程度で推移
- 18回以降は本部行事として実施 (参加無料)
- 懇話会后、講師を交えて軽食をつまみながら歓談する場も設けているところも売りの一つ (参加は任意)

懇話会ビデオの公開



小委員会HPにて、会員限定で懇話会の映像を公開中（第10回以降）

『地震防災技術懇話会』

主催：公益社団法人土木学会 地震工学委員会 地震防災技術普及小委員会

【第10回地震防災技術懇話会】「国際交流-私の経験から」 東京大学名誉教授 片山恒雄先生

2007年9月



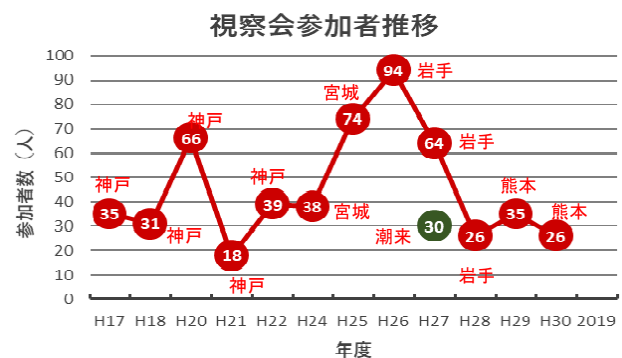
被災地視察会



- 平成17年度より神戸、平成24年度より東北、平成29、30年度は熊本の地震被災地を巡った。復旧状況を直接見たり、現地で起きたことを学習し、現地の雰囲気を感じてもらう場を提供する。参加者は概ね30～40名で推移
- 2019年度、視察会を実施しなかったが、2020年度以降に向けて委員により北海道胆振東部地震被災地の下見を行った（7月）。



熊本地震視察会（H29.11.22）
阿蘇大橋の再建現場にて



※2日開催の場合は延べ人数を表示
2019年開催なし

出版活動



❧ 耐震設計入門セミナーのテキストを出版

・基礎編（平成22年度～）：累計販売 2,248部

・実践編（平成26年度～）：累計販売 1,089部

（いずれも2019年度末時点）

令和3年度以降の改定・出版に向けて、令和2年度に執筆作業を実施する。

❧ 地震災害マネジメントセミナーの10周年記念シンポジウムのテキストを出版（絶版）



基礎編用：定価¥3,400



実践編用：定価¥3,900



13

謝 辞

本資料の～H29の参加者数等のデータは、本小委員会の濱野雅裕委員（前委員長）の集計・作図によるものを使用させていただきました。ここに記して謝意を表します。

14

ご清聴ありがとうございました